

◎司会進行 企画課長

1 開 会

2 副市長あいさつ

○開会に当たり、市を代表して副市長より挨拶

皆様におかれましては、本日大変お忙しい中、また道内の新型コロナウイルスの状況が今後に向けて非常に厳しい状況が続いている中、各分野の皆様のご出席をいただき、本年度第1回目となります北斗市総合戦略検討・推進会議を開催する運びとなり、厚くお礼を申し上げます。

本日、皆様に検証いただきます第2期北斗市総合戦略につきましては、昨年度、当会議の審議を経て策定させていただいたところでございます。

第2期総合戦略につきましては、第1期総合戦略の検証を踏まえ、より北斗市の強みを活かし、さらには弱みの底上げを図るとともに、事業の絞り込みを行うということ、それに加え、シティブロモーションにより、全国により北斗市を強く発信するという事業も盛り込んだ中で、計画を策定したところでございますが、ご承知のように、新型コロナウイルスの影響を受けまして、事業の中には、なかなか進捗が見られない事業もございます。

このような中、今後の戦略事業の推進につきましては、新たな日常の構築も重要なキーワードとなることはもちろんでございますが、先程申し上げました北斗市の強みを活かし、弱みの底上げを図るという基本的な部分については変わりのないところでございます。

また、憂慮すべき数字を一つご紹介させていただきますが、先月、全国的に妊娠届出の件数が、前年同期と比べ、十数パーセント減少しているという新聞報道があったことを皆様も記憶されていることと思えます。

この数字について、10月末時点での北斗市の状況をお知らせいたしますと、131件ということで、前年同期との比較で、件数にして△44件、率にすると25%程減少している状況でございます。新型コロナウイルスに起因する社会不安というようなものが、大きな要因であると捉えてございますが、いずれにしても、若い方が結婚したいという希望をかなえる環境づくりであったり、出産・子育てを希望する皆さんの希望をかなえる施策の充実というものが必要になってくると考えているところでございます。

いずれにしましても、本日は、今申し上げましたような様々な状況の変化に対応し、皆様から忌憚のないご意見をいただいてまいりたいと思っておりますので、よろしくご意見申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

3 会長あいさつ

○会長より挨拶

皆さん、改めましてこんにちは。この会議の会長として、議長役、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この会議は、北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に向けた検証を行うことを目的としており、私自身は今年の1月から、第2次総合戦略の策定作業より参画させていただいて

おります。

今年は、5ヶ年の初年度ということで、次の新たなステージに入りました。総合戦略に掲げられている各施策の実施状況を検証する会議と伺っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いしたいと思います。

第2期総合戦略については、スタート以来、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いまして、各事業の実施が困難な状況となっております。

また、大学も遠隔授業を進めることとなり、試行錯誤の状況です。企業におかれましても、在宅勤務・テレワークとそういったことも含めて、新しい生活様式ですとか仕事のあり方ということが重要になってきているのかと思います。

この総合戦略の検証においても、そういった視点での議論も必要かという思いがいたしております。各委員の皆様方から少しでもご質問いただいたり、ご検討頂いてご意見をいただく、そういう舞台をできるだけ円滑に作っていくのが私の役割であると考えておりますので、ぜひ皆様方のご意見、ご質問ですとか忌憚のない議論を進め、より計画が進捗するよう目指してまいりますと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ◎司会進行 会長（会議終了まで）

#### 4 議事

○事務局より会議の主旨の説明、配付資料の確認、前回から変更のあった委員（3名）の紹介  
辞任委員（1名）、欠席委員（5名）の報告

##### (1)第1期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

○企画課長から資料1に従い、基本目標ごとの数値目標、施策ごとの重要業績評価指標（KPI）の達成状況、その評価について説明を行った。

質疑等は無く、評価についても了承いただいた。

##### (2)第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○資料2、3に従い、企画課長から基本目標ごとの数値目標、施策ごとのKPIについて、担当部長から主な事業の実施状況、今後の方向性について説明を行い、質疑を受けた。

##### ・基本目標1について

発言者	発言内容
委員	質問が2つあります。1つは、新型コロナウイルスの影響で人口の流れというのは、国全体としてどうなっているのか教えていただきたい。 例えば、東京から流出が始まっているとか、大都市から流出して、今地方に人口が流れているとか、そのような情報は、市として持っているのか。 もう1つは、企業立地を意欲的に進めており、大変素晴らしいと思いますが、既存の市内企業への働きかけ・周知の仕方が、例えば、ホームページ・広報と記載してありますが、なかなかこのような情報が入ってきません。 情報弱者となってしまうと、利用できる制度が利用できなくなってしまうので、もう少し今ある企業に対しても、働きかけですとか動きを追ってもらいたいという希望があります。

委員 (続き)	例えば、雇用確保と雇用機会づくりの促進の中で、障がい者・高齢者の雇用を支援する助成制度がありますが、私は知らず知らずのうち、高齢者を多く雇っている状況でした。今見るとこの様な制度があったのかと思いますが、この様な方々は、ハローワークを通して応募してきません。仕事ガイドですとかフリーペーパーを見て入社される方が多いです。そうなると、被雇用者の方々も分からないですし、雇用主の私も分からない状況でしたので、何かもう少し既存の企業に対して、情報を得やすい環境を整えていただけると助かります。以上です。
企画課長	1つ目のコロナ禍における全国的な人口の状況ということで、新聞報道等で見えてきた中で、先日、東京都の人口の社会動態が初めて転出超過となったという記事が出ておりました。ただ、その転出先というのは、近隣の埼玉・千葉・神奈川といったところで、実際に首都圏から北海道の方までコロナの状況で人口が流れているというところまでは、実態の数値としてはまだ掴めていないところですが、北斗市の今年度4月～9月までの人口の社会動態を申し上げますと、△21人となっております。この△21人という数字は、昨年同期ですと△80人程度となっておりますので、これも新型コロナウイルスの影響と言い切れない部分もありますが、首都圏に転出する方が減っているのではないかと感じております。1つ目は以上です。
経済部長	2つ目の雇用状況につきまして、5頁で説明いたしましたが、今年度、アンケート調査を実施する中で、企業からのニーズを把握し、その後企業との情報交換等により、解決に向け進めたいと考えております。 周知方法につきましては、現在、お話があったとおり、市のホームページ・広報で、周知をしているところですが、今後については、アンケートに基づいて企業と直接対話するとか、あるいは、商工会等の協力をいただきながら取り組んでいきたいと考えております。2つ目は以上です。
委員	7頁についての質問です。立体駐車場は有料、平面駐車場の方も有料にするということですが、現在の立体駐車場には、千円札までしか使えない現金のみの精算機が設置されております。平面駐車場が有料となる際に、カード決済、ICで精算できるという精算機の導入の計画はあるのでしょうか。 実際、出庫するにあたり、千円札を持ち合わせておらず、コンビニで崩したという経験があります。札幌へ行くとカード決済ということは通常です。
総務部長	ただいまのご意見ですが、実際に立体駐車場は、ご指摘のありました状態で稼働しております。立体駐車場との整合性を考えなければならぬところですが、現在、平面駐車場に関しては、どの様な決済方式で、どの様な精算システムを導入するかといった具体については、まだ検討段階中ということで決まっております。ご意見を踏まえながら、立体駐車場と合わせた形で検討していきたいと考えております。
委員	できれば、国がキャッシュレス決済を推進している以上、これの流れに乗っていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。
委員	市では、商業・農業・工業に様々な補助をしており、それはすごく良いことと思っております。ただ、本当に人を呼びたいということであれば、空いている農地を活用して、値段の良いマンゴーなど、果物のハウス栽培を北斗市自身が行って、働く人を呼び入れるのが良いと思っておりますが、そのような考えはございますか。
経済部長	ご質問の主旨として、北斗市として特色のある施策はできないかということだと思いますが、農業であれば、地場に合った農作物を模索し、作付けをしており、水産業では、漁獲を待つだけではなく、つくり育てる漁業について模索している状況です。北斗市自身が公営で行うことは難しいと思っておりますが、そのような中で、旧大野町の文月地区では、ぶどう農家が数件作付けをしております。

<p>経済部長 (続き)</p>	<p>今後については、ワイナリーやそれを含めた宿泊所など特色のある取組に対する支援を検討しているところであり、市独自で行うことは難しいですが、支援するという形で、北斗市の特色のあるものとして育てていけたらと考えております。</p>
<p>副市長</p>	<p>追加で補足いたします。遊休農地というご指摘ですが、遊休農地は若干ですが、徐々に減少の傾向にあります。また、農業についてご指摘をいただきましたが、一番重要なのは、産地化・ブランド化ということであり、一定量の収穫を確保する必要もあります。果物等の施設栽培ということですが、新たな技術も必要となり、簡単に栽培することができるという訳ではありませんし、また、栽培した作物を消費者の皆さんに選んでいただけるとは限りません。経済部長が説明しましたとおり、一部の土地ではその特徴を活かして、ワイン用ぶどうを栽培し、それをワイナリーでワインとして生産しようとする動きはあります。そのような取組には、市としてもできる限り支援したいと思っております。北斗市の農業の特徴としては、稲作にしても、野菜等の施設園芸にしても、やはり産地化・ブランド化ということで高収益化を図っていく、その方針からすると市が、ご指摘をいただいたような農業事業に参入するということは、現時点では検討できないと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>22頁の未整備森林現況調査事業に関連して、森林環境譲与税を活用したさらなる林業の活性化についてお願いしたいと思います。東京オリンピック需要などで、広く普及してきた森林認証という考え方ですが、この渡島・檜山でも、森林認証を受けており、産出される認証材について活用の促進を図りたいと考えております。例えば、旭川市の隣の当麻町では、家を新築する際に、地元の認証材を利用した場合、上限はありますが、材の購入額の全額を補助しており、そのような認証材の活用の促進に関して、市の施策を考えていただくと有り難いと思っております。また、国ではスマート林業の推進を目指しており、事業者が先端機械を取得する際には、何かしらの支援をいただくと、人材不足を補う技術化が進んでいくものと考えております。</p> <p>最後に、14頁のはこだて旅するパスポート&amp;フリーパス発行事業に関連して、縄文遺跡群の世界遺産登録についての記載がありますが、北斗市にも、茂辺地地区などに立派な縄文遺跡が沢山ありますが、これらが世界遺産登録の仲間に入るためには、どのようなことが必要なのか、そしてその必要なことが出来るのかを考えながら、世界遺産登録に向けた受入態勢の準備を考えていただければ有り難いと思っております。以上です。</p>
<p>農林課長</p>	<p>森林環境譲与税の用途としては、未整備森林の整備、木材の利用促進・普及啓発などが挙げられます。まずは、未整備森林の調査について着手していますが、木材利用の促進についても手掛けていかなければならないと考えております。北斗市も森林認証推進協議会の一員として、認証材の活用の促進に向け取り組んでいるところです。また、スマート林業につきましては、事業者からそのような声があれば、森林環境譲与税に限らず、国の様々な補助事業もありますので、その利活用も含め検討したいと考えております。</p>
<p>観光課長</p>	<p>世界遺産登録に向けた受入の準備ということですが、現在、北斗市には90程度の縄文遺跡があります。今後、これらを世界登録遺産とすることができるのかということですが、今年9月に来年の世界遺産登録に向けたICOMOS(イコモス)の現地調査が既に入っており、北斗市については、世界遺産に登録されるような遺跡はないという報告を受けております。</p> <p>函館市の垣ノ島遺跡、大船遺跡が該当しますが、このはこだて旅するパスポートは16団体で構成される広域事業であり、北斗市・函館市・七飯町・鹿部町・森町の5つの自治体をフリーパスポートで周遊できる事業です。北斗市の立場としては、新函館北斗駅を起点とした周遊ルートの世界遺産登録に向けた受入体制ということで確立していくこととなります。以上です。</p>

委員	3頁のサテライトオフィスについて、調査研究という記載をしていますが、令和6年度までには導入できないという意味なのか、何かを完成させるというビジョンを持っているのか、お聞きしたいと思います。サテライトオフィスの導入に関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、テレワークなどで注目されており、非常にタイムリーな事業であると思いますが、一般の方の興味は、すぐに移ろうこともあることから、可能であれば、早めに導入の検討を進めた方が良いと思います。北海道は、サテライトオフィスの導入が盛んで、開設している企業数が全国でも1位になっており、既に公設のオフィスを開設している北見市や更別村など、先進事例の情報収集をすることも可能かと思えます。私見ですが、北斗市の方が立地環境などの条件は良く、可能性は非常に高いと思いますので、早めにやられた方が良いと思います。もう一つは、来年度、地方創生テレワーク交付金というものが新たに創設されるように聞いており、詳細は未定の様ですが、国も本腰を入れていく模様です。今後のビジョンについてお伺いします。
経済部長	サテライトオフィスと関連した形でのインキュベーション施設や、シェアオフィス等についても情報収集を行っており、メリット・デメリットを確認している状況です。企業誘致活動として企業フォーラムへ参加しておりますが、ここではIT関連企業の方と接触を試みて色々とお意見をお聞きしたり、また、今年2月には、神奈川県藤沢市の湘南産業振興財団を訪問し、色々とお教示をいただいたところです。基本的にサテライトオフィスについては、市で箱物施設を整備することは難しく、民間による進出を期待しております。また、観光交流センター別館ほつくるには、空きスペース等もあることから、そちらの活用ということも考えていきたいと思えます。現状としましては、以上です。

・基本目標2について

会長	福祉職人材回帰マッチング事業がもう少し上手くいけば良かったと思えます。大学でも地域滞在型のインターンシップを行っており、2週間位滞ると地元でなくともその地域に愛着を持ってきます。やはり、2泊3日位ですと、もっと体験したいという状況で帰られてしまうのかと思いながら、説明を聞いておりました。
----	--

※質疑等はなし。

・基本目標3について

※質疑等はなし。

・基本目標4について

※質疑等はなし。

※基本目標1～4を通して再度質疑を受けた。

委員	基本目標2、34頁の外国人雇用企業への支援と受入環境整備について、令和2年度の欄にアンケート調査の結果を踏まえとありますが、アンケートはもう実施したのでしょうか。
経済部長	アンケートについては、これから実施する予定です。
委員	令和3年度の欄にそれを踏まえて、外国人技能実習生の活用を促進するとありますが、促進ということは、何か市として支援していただけるということでしょうか。

経済部長	全庁横断的な体制を整え、その中で情報交換を行いながら、例えば、外国人労働者の生活環境の改善など相談に応じながら、支援できるものについては検討していきたいと思います。
委員	アンケート調査した企業には、アンケート結果をフィードバックしていただくということは可能でしょうか。
経済部長	はい。それは可能です。
委員	アンケートをお待ちしています。よろしくお願いします。
委員	基本目標1、25頁の函館地域産業振興財団へのさらなる協力に関連して、先程、委員から既存企業に対する支援が足りない、案内が不足しているのではないかとの指摘がありました。函館地域産業振興財団では、北斗市と連携しながら地域企業に対して、研究クラスの助成や出展時の助成、研究開発の技術支援を行っております。これらの事業につきまして、各企業にはなるべくダイレクトメールで情報発信したり、メルマガやホームページでも情報発信しているところですが、それでも足りていない部分もあるとのことでしたので、情報発信に関する何か良い案があれば、皆様から教えていただけると有り難く思います。できるだけ多くの情報を仕入れ、企業に対して色々な情報を伝えたいと考えております。以上です。
委員	質問ではありませんが、私も外国人技能実習生を雇入れており、新型コロナウイルスの影響によって、各企業の残業ですとか、仕事自体が無くなったというところも多く、外国人技能実習生の収入が少なくなっているという情報が入ってきます。そのような状況で、外国人技能実習生が悪気のない犯罪を起こしてしまうなど、ニュースにもなっていることから、外国人技能実習生に対する施策については、スピード感を持ってお願いしたいと思います。
経済部長	外国人技能実習生の取扱いにつきましては、さきほど説明の中でも申し上げましたとおり、情報共有や連携を取りながら、全庁横断的な体制を整え、検討していきたいと思います。
委員	外国人を受入れているのは、私たち個人の企業ではなく、受入組合やそのような斡旋業者が何社かあります。市役所の全庁横断的な体制はもちろんです。そのような中間的に受入れる側の人達と情報を密にして、私たちへ色々な指示を出していただけると大変助かります。
経済部長	そちらも踏まえまして、今後努めていきたいと思います。

### (3) 地方創生推進交付金事業について

○企画課長から資料4に従って説明を行い、意見等なし。

### (4) その他

その他ということで会議全体を通しての質疑を再度受けた。

委員	資料の2の関係ですが、様々な施策を行う際に、欲しい情報が欲しいと思う人に届かなければ意味がありません。基本目標3の子どもを生み、育てたいという希望をかなえるという項目ですが、人口減少解決に向けて一番肝心な所ですので、事業を行うことは当然必要ですが、的確な効率の良い広報にも力を入れて頂いた方が良いと思います。せっかく子どもを生みたいと思っている方が、施策を知らず断念しているという状況がもしあれば、非常に残念なことで、事業も当然ですが、広報に力を入れていただきたいということが一点目です。また、施策を進めるにあたって、様々な考え方で進めて行くと思いますが、例えば若い人の意見や感性を取り入れた方が良い場合もあるかと思えます。サテライトオフィスの話もそうですし、例えば調査事業など、若い人の意見を聞くことが必要であると考えております。
----	--

委員 (続き)	北海道教育大学函館校では、巡回型サテライトオフィス事業を行っており、地域課題の解決に向けて、学生が色々知恵や力を貸して下さるという事業を行っております。また、27頁のずーしーほっきーを活用した情報発信などの項目では、学生の意見や知恵が非常に有効だと思いますので、会長を通して、この事業を活用するのも良いかと思っております。ご提案ということで話をさせていただきました。以上です。
委員	広報については、市の職員が内容を考えて意見をまとめたり、市民や企業へ伝えたいことやご意見をいただきたいことが、伝言ゲームとならないように工夫されていると思っておりますが、市民がどう見ているのだろうかということについては、興味のあるものしか見ていない、あるいは見過ごしてしまっていることもあると思っております。特に、子育て世代については、スマートフォンを巧みに操作し、テレビよりもユーチューブを見ていたり、個人でチャンネルを開設したりしております。子どもを生み、育てたい世代の方々は、ユーチューブを必ず見ているはずですから、市自体で、子どもを生み、育てたいという専用のチャンネルを作ってはいかがでしょうか。これを見てください、ここにヒントがありますよという風に。詳しくは窓口で私がやっています位に。見る媒体が変わってきていますので、そこに見に来てもらうような施策をするということはいかがでしょうか。一つの提案です。以上です。
副市長	広報に関しまして、お二方よりご意見いただきありがとうございます。私も、ただ単に伝えるだけではなく、きちんと伝わるように、どういう方法が良いのかということは、常に工夫・改善をこらしていくべきということは同意見ですが、その中で、子育ての関係でいえば、とある新聞に若い方のアンケート結果で、子育てには非常に費用負担が伴うという回答をされた方が三十数%というアンケート結果が載っておりました。保育料無償化・授業料無償化ですとか、自治体によっては様々な子育て支援策を行っており、子育て中の方はこのような施策・制度等を十分ご存知だと思いますが、これから例えば結婚しようだとか、出産・子育てをしようという方は、興味がないとは言わないですが、知ろうとしてないということもあり得るということその記事を見て感じました。このようなことから、既存のお知らせの仕方だけではなく、若い方が興味を引く、関心を寄せるような周知・情報の出し方というものを、画一的ではなく、工夫を凝らしながらしていくべきであり、まさにお二方のご意見は、そこにつながるものだと思います。いただきましたご意見を踏まえ、今後も施策効果を十分以上に発揮できるよう、広報に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

事務局から、本日の議事録を作成し委員へ送付すること、委員名を伏せた形でホームページで公開すること、広報12月号で市民の皆様へお知らせすることについて説明し了承。

## 5 閉会

本日の会議を終了する。